

[ガバナー補佐からのメッセージ] IMの将来について



IM第4組 ガバナー補佐

辻本一義 (東大阪RC)

当地区内で、従来から一般的に行われてきたIMの内容について、見直す必要があるのではないかとの意見を耳にする事がある。

その理由は、過去に多く見られたIMの形式は、著名人を講師としての講演がメインであり、高額な講演料を必要とすると共にロータリーの奉仕活動に直接関わりのない内容である事が多々あると感じられる点が指摘されている。

しかし前記の形式は、講師の名前にひかれて参加会員が多くなり、さらに普段は直接聞く事のできない話を聞けるメリットがある。

そこで私の意見としては、研修と親睦面で成果をあげることの出来る内容であれば、ホストクラブの自主性に任せるべきで、前記の形式が採用されるのを否定する意見に賛同できない。

しかし他の形式を模索し、ホストクラブの方針により他の形式を採用されるのであれば、これは新鮮味があり

有意義であると考えます。

この形式として直ぐに思い浮かぶのは、外部講師によらない全クラブ参加形式である。これは、共通のテーマを決めて各クラブの代表者が例えば10分ずつ発表するものである。

テーマとすれば、例えば、会員の維持増強、職業奉仕の具体例、成果をあげた国際奉仕の具体例、姉妹クラブとの付き合いの現状、クラブの問題点とその対策、その他色々考えることが出来る。全クラブから発表者が出るのであれば、参加者の動員にも役立つのではないかと考える。

また、各クラブから最近の新入会員に登壇してもらい、新入会員の紹介やロータリーの感想や運営についての意見発表をするのも面白いと思う。

さらにIM内の会員が一同に集まる機会はないから、懇親の場を設けて他クラブの会員との交流を図るのも従来通り行う意義はある。